

#オオイタレキシ旅 2025

大分市内にあるとおきの文化財の魅力を届けます!

—第10弾—
浄土寺

徳川家康の孫、松平忠直(一伯公)が眠る浄土寺
王子西町にある浄土寺は、徳川家康の孫、松平忠直(一伯公)のお墓があることで知られます。大坂夏の陣で真田幸村を討ち取るなど、大きな功績を残した忠直は越前から豊後に移り住み、生涯をこの地で過ごします。浄土寺第十代の信譽上人と親交が深かった縁もあり、遺体はここ浄土寺に葬られました。忠直が眠る「浄土寺一伯公廟」は、本堂東に位置します。入母屋造妻入椽瓦葺、正面に軒唐破風を付けた華やかなもので、扉板と瓦には徳川家の「葵の紋」が施され、中には忠直の墓碑が納められています。一伯公廟の他、境内の本堂、庫裏、玄関及び渡廊下、大弁財天石宮、表門、北門の7件が国登録有形文化財であり、歴史的な景観を今に伝えています。



Point
一伯公廟は、江戸時代の廟所建築の代表例で、正面の唐破風や、柱の上に置かれた組物の造りは、彫りが鋭利で曲線が滑らかに仕上げられ、丁寧に高い大工技術が使われています。

Access
所在地：王子西町 8 -35
大分駅から車で約10分
駐車場：約80台

Next Journey!
次回は
千代丸古墳
です。

問 文化財課 ☎578-7546

Q 市報クイズ
スマホはがきで応募!
○に入る言葉は何かな?
燃やせるごみに最も多く混入されているリサイクル可能な資源物は、何でしょう?
「○類」
ヒントは、この市報の中にあります。

正解者の中から抽選で、ごぼうを使った加工品セットを3人にプレゼント!
※当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

応募方法
スマホ 右の二次元コードから応募してください。
はがき はがきに、答え、住所、氏名、年齢、電話番号、市報の感想を記入し、2月15日(出)消印有効)までに広聴広報課(〒870-8504 荷揚町2-31 ☎537-5713)へ。

1月号「市報クイズ」の答え
市で生産された農林水産物などの加工品の認証ブランドは?
「Oita **B** **i** **r** **t** **h**」

編集担当より
表紙の写真は、裏川保育所5歳児クラスの皆さん。フラミンゴのポーズをしてくれました。
今回は、保育士の先生方に仕事の魅力ややりがいについてお話を伺いました。皆さん子どもたちのことが大好きで、笑顔や成長の瞬間が見られることをとてもやりがいを感じているということが伝わってきました。子どもたちを思うあたたかい言葉や保育への姿勢、すごく素敵です。

市では、保育現場の見学・体験や保育士として働く保護者の保育所の優先利用など、保育士として働きたい人をサポートする制度が充実しています。
興味があればぜひお問い合わせください。

市民図書館からのお知らせ
市民図書館ボランティア募集
内 書架整理、資料の簡易修理、地域資料の整理、読み聞かせ(3年以上経験のある人)、図書館行事への協力
対 市内居住の16歳以上の人
ボランティア説明会(事前申込不要)
時 2月13日(休)、16日(日)…午前10時～14日(金)…午後2時～
(いずれかに参加、1時間程度)
場 J:COM ホルトホール大分 2階 201・202会議室
※16日(日)は201会議室のみ
市民図書館、分館、各図書室は蔵書点検のため休館します
時 3月3日(月)～13日(休)
※予約本の受け取りもこの期間中はできません。休館中の本の返却は、図書返却口、図書返却ボックスへ。



原始・古代・中世・近世・近現代の美術工芸品や史跡などの文化財を通して、日本の歴史を深く掘り下げていく本です。歴史の表舞台には登場しない職人や作家に思いをはせると、人々の生活に密着した新しい歴史も見えてきます。

バットマンシオン
北川佳奈・作
九球堂・絵
アリス館
バットマンシオンは虫たちが住む小さなマンションです。ここには美しい裏庭があり、虫たちはお互いに交流したり、昼寝したりして楽しく過ごします。何気ない日常に優しさがあふれていて、ほのぼのとした気持ちにさせてくれる1冊です。



文化財が語る日本の歴史
社会文化編
會田康範・編・下山忍・編
島村圭一・編
雄山閣

詳しくは、市民図書館ホームページをご覧ください。市民図書館(☎576-8241)へ。



人権・同和教育シリーズ 554

人の生き方を考える
自分の心の中に



息子のマサヤ(仮名)を塾に送ろうと早めに会社から帰ってくると、キッチンで何かごそごそしているの、「何してるの」と声を掛けると「いや、バレンタインのチョコを渡そうと思ってる」と言うのです。思わず「バレンタインって普通は女の子が好きなのよ」と聞き返すと「…」と黙ったまま何も返事をしないのでした。その後、車の中で「まさか男の子に渡すなんて言わないよね?」と聞いてもやはり息子は黙ったまま。それ以上言えず、何だか不安な気持ち押し寄せてきたのでした。

その夜、社会人として働いている娘の部屋に行き、息子の話をしながら「もしかしてマサヤが男の子のことを…こんなことならもっと男の子らしく育てればよかった」とつぶやくと、娘が「そもそもマサヤが何か悪い子に…」と黙ったまま何も返事をしないのでした。その後、車の中で「まさか男の子に渡すなんて言わないよね?」と聞いてもやはり息子は黙ったまま。それ以上言えず、何だか不安な気持ち押し寄せてきたのでした。

こととして「何?」と言うのです。「でも、ほら世の中には性的少数者に対する偏見や差別があるって聞くし、マサヤのことを思うと…」と伝えると「でも、その偏見って、お母さん自身の心の中にあるんじゃないかなあ」と。続けて娘は「わたしにも小さい頃から『女の子らしくしなさい』と言っていたでしょ。そのときはそれが当たり前だと思ってたけど、『当たり前』って何なんだろうって」と言う娘の言葉にハッとしました。